

実績報告書

令和4年度

ハイジニカル園

児童の待遇	保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ・新入園児に対して、入園前に面接を実施し、個人の出歴や健康状態、生活態度等を把握した。 ・内科検診を6月、12月の年2回受診した。その結果、異常の園児は保護者へ伝え病院受診を促めた。 ・体質、偏食等を把握、傷病時の投薬を行った。 ・新型コロナウイルス感染予防のため、毎週土曜日は消毒の日とし、園内外の掃除、消毒や玩具類の消毒、カーテンの洗濯などを行った。 ・歯科健診を5月、11月の2回実施した。受診結果は保護者へ伝え、早めの受診を促した。 ・毎月、保健だより、健康だよりを発行し、病気の予防を促した。感染症が発生した時には、ポスターを提示し予防を促した。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、登園時に玄関先で検温、消毒、健康状態のチェックを徹底した。送迎も玄関先で実施した。 ・活動の前後での手指の洗浄、消毒を徹底している。 ・園児、保育教諭にコロナ感染者が出た場合は感染拡大しないように浦添市と調整しながら対応を行った。 ・熱中症対策として、子供たちの体重から1日の必要量を表にして、定期的に水分を摂取するよう促した。 ・インフルエンザ感染拡大防止のため予防接種を促した。 ・食育を重要課題に位置付け、年間指導計画を作成し、それに基づき発達段階に応じた日常生活の食事について指導した。その結果、望ましい食習慣がつくようになった。 ・定期栄養報告書の作成及び身体状況の把握 ・給食は浦添市保育所統一献立表を基に実施 ・個々の発達に合わせた離乳食の充実に努めた ・今年度はアレルギーの子が8名いた。アレルギー調査票に基づき代替食品調理法で栄養が偏らないようにするとともに家庭との連携を密にし、個別対応を行った。また、アレルギーのある子に関する職員間で情報共有し、二重チェックを行い、事故のないように努めた。 	業務管理	<ul style="list-style-type: none"> ・業務を効率よく進めるために、明確な職務分担を行った結果、各担当は責任を持って取り組む事ができた。 ・保育材料、備品の整備も担当責任者を決めて、整理したこと、使いやすく、管理しやすくなった。また、園庭遊具の補修、点検をし、取り出しやすいように整理した。 ・定期的にエレベーター、消防・建築設備、防犯カメラ、電気等の定期保守点検を行った。 ・職員への自己評価を実施し、振り返りを行い、業務への意欲に繋げている。また、集計分析し、園全体の課題として取り上げ検討会を開催した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・こいのぼり掲揚式5月、七夕7月、クリスマス会12月など毎月の行事等や保育教育活動は感染対策を様々に工夫し開催した結果、保護者からも好評であった。 ・3密を避けるために、行事を人数制限、クラス別に開催、時間をずらしたり、日数を増やして開催した。 		主な行事
		<ul style="list-style-type: none"> ・職員会、処遇会議を毎月開催し、情報の共有を図った ・ケース会議、給食会議、危機管理会議を毎月開催し、解決に向けた検討を行った ・毎月の浦添市定例園長会、中南部ブロック、日保協中部地区園長会に参加し、お互いに課題の情報を共有した 		運営管理
		<ul style="list-style-type: none"> ・火災報知器点検（年2回）、水質検査及びタンク清掃（年1回）行った 		各種点検
		<ul style="list-style-type: none"> ・貯水槽清掃年1回（本園、分園）、毎朝、早番の人が水質検査をし、残留塩素の確認をした。 		飲料水
	栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に草刈り、プランターに花を植え環境美化に努めた。 ・運動マットは天気の良い日に日光消毒を行った ・毎週月曜日の砂場の消殺を行った。 		園外
		<ul style="list-style-type: none"> ・未満時窓は1日3回、掃除機をかけ、床を拭いた。 ・3歳児以上室は1日2回清掃、消毒を行った。 ・1日2回（朝、夕）階段の掃除、手すり等の消毒を行った ・遊具の消毒を毎日行った ・窓ふきは週1回、押し入れは月1回掃除を行い、倉庫は毎月1回点検、片づけをした 		園内
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、毎週、毎日副皿器具の点検を行い、記録に残している。毎日の水質検査、職員の健康チェックを実施した。 		厨房
		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練計画に基づき、毎月1回、実際の訓練を実施し、その結果の反省会を行い、修正等を行った。今年度は密を避けるため、人数を減らすため2回に分けて実施した。それと同時に避難経路等の整備、点検を行った。 ・地震を想定して安全な場所への避難を知らせた後、視覚指導を行った。 ・不法者侵入の想定をし、訓練を実施した。 		避難訓練
		<ul style="list-style-type: none"> ・浦添消防署の視聴覚教材を利用して実施した。 ・浦添市消防署出動による避難訓練の実施。保育教諭が主体的に模擬訓練を進め、園の訓練の概要を実際に見てもらい、適切な避難訓練ができるか署員から指導を仰ぐ。 		非常災害対策
職員の待遇	保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健診（中部医師会、ヘートライ病院、徳洲会新都心クリニック）を実施。診断の結果、再検の必要があった職員は、各自病院にて検査を促した。 ・蚊虫、尿、便検査の実施で異常なしだった。 ・園長、乳児担当保育教諭に関しては、月1回検便検査を実施した。全て異常なし ・コロナ禍で保育教諭の負担が増えていることから、メンタル面でのフォローアップのため個別面談を実施した。 	非常災害対策	立会訓練
		<ul style="list-style-type: none"> ・粉末消火器11本設置 ・玄関先1本、乳児室1本、1階廊下1本、厨房1本、1歳児保育室1本、2歳児保育室1本、3歳児保育室1本、4歳児保育室1本、5歳児保育室1本3階廊下1本、ピロティ1本 		消防設備
		<ul style="list-style-type: none"> ・園だより、クラスだよりを毎月発行し、園での様子を保護者へわかりやすく伝えて保護者と信頼関係を築くようにした。 ・保護者全員にアンケート調査を実施した。その結果は園での集団生活が子どもの成長に大きく貢献していると感謝の声が多くあった。保育教諭と保護者が密に連携が取れていることが伺えた。 		保護者
		<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭が抱えている悩みを解決するため、育児相談の呼びかけを行ったが、今年度は参加者がいなかつた。それで、毎月のクラスだより等で育児に関する疑問等などで伝えるように努めた。 		保護者・地域子育て支援
		<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業は今年度は重点的に取り組んだ。毎週、活動計画を作成し、地域の子育て家庭のニーズに答えるように充実した内容に特化した。熱心に呼びかけた結果、5人の保護者が定期的に参加するようになった。 ・実習生の受け入れを実施し、次世代の保育教諭の育成に努めた。 ・地域との交流を深めるため、地域の行事やイベント等には積極的に参加した。また、こども園の行事に問ても、広く地域へ呼びかけた。 ・屋外活動で常時活用している公園等は職員で清掃、花植えを実施した。 		地域との交流
福利厚生	業務管理	<ul style="list-style-type: none"> ・各種社会保険、退職金掛け金へ加入し、職員の待遇の充実を図った ・新型コロナウイルス感染症対策のため、職員間の親睦等は中止したが、職員間の交流を図るためにランチミーティングを活用し、お互いの交流を図った。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・職務分担表に基づき、各係を中心に計画実施、点検等をすることで円滑に業務が遂行された ・ランチミーティングで各クラスの動態を共有し、登降園時の連絡事項を徹底することにより、保護者への対応がスムーズにできた ・会計、経理について会計、出納責任者、運転、銀行印、固定資産、予算、管理者、契約担当が会計基準に基づき事務処理を適正に行った ・年1回監査、行政指導会計監査を行った結果、適切な会計、事務処理がなされていた 		

令和4年度 ハイジこども園 こども園自己評価結果

「**「保育連携型認定こども園教育・保育要綱」第1章総則第2節1(4)**に基づきこども園の自己評価が位置付けられています。
自らの教育・保育実践と子どもの育ちを振り返り、自己評価を行います。その結果を、次の教育・保育に向けて改善を図り教育・保育の質を向上させることを目的とします。

<評価方法>

評価 … 次の基準によって評価欄に4・3・2・1と記入する。

【 4:できている 3:ほぼできている 2:あまりできていない 1:ほとんどできていない 】

内 容	評価	意見・改善策
1.保育・教育の理念	3	○地域においてこども園の果す役割を理解し、指導計画を子どもの発達に応じて作成している。 評価・反省を行い、改善を行っている。「ほぼできている」が多いが若い保育教諭は「あまりできていない」が多い傾向にある。今後、保育方針や指導計画、評価についてベテラン保育教諭と若手保育教諭との検討を重ねていきたい。
2.保育教諭としての自覚	4	○社会人としての基本的な挨拶、言葉使いなどはほとんど、「出来ている」になっている。 ○保育教諭としての自覚や自信も高評価である。今後も継続していけるように職務会等で、繰り返し確認していく。
3.養護（生命の維持）	4	子どもの安心・安全に関する項目であるので、常にミスのない評価が求められる。保育教諭の業務の中で緊張して関わることを、常に意識させるように取組んできた結果である。
4.教育 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)	3	(人間関係) ○人とのコミュニケーション能力を育てることは子に時期大切な項目である。保育教諭がバランスよく仲立ちしたり、相手を思いやる心を育て、ルールを守って行動できるように指導しているが、更に努力していく必要がある。 (環境) ○子ども達がワクワクできるような活動を展開するにはどうすればよいか。環境構成がマンネリ化しないための工夫や、子ども達の主体性を尊重しながら活動を楽しめるよう工夫について、職務会等で議論していく。 (言葉) ○保育教諭自ら、言葉で伝える大切さを理解し子どもと向き合えるように取り組む必要がある。言葉について再確認し、充実させるための技術、方法等を検討していく。 (表現) ○子どもが伸び伸びと表現できるような内容や方法について検討を重ね、職員間で情報の共有の場を設定し、強化していく。
5.障がい児保育	3	○気になる子や発達障害の子への支援について、毎月検討会を開催している。今後も継続していく。
6.健康及び安全	4	○検温、午睡チェックを、徹底して行っている。 ○様々な研修に積極的に参加し、感染症や防災についての知識を広げ、園全体で共有している。 ○災害・傷病訓練は毎月行い、訓練結果を話し合い改善点など検討し、マニュアルの改善に繋げている。
7.アレルギー	4	○アレルギーに関する知識を厨房職員と共に、共有し、その対応を統一している。保護者と連携を密にしながら更に強化していく必要がある。 ○除去食においては、チェック表を用いて常に緊張感を持って対応している。全職員に周知徹底するようにしていく。
8.食育	3	○食育は本園では重要課題として捉え、食育計画を作成・実施している。今年度は年度中間で、評価・反省を実施し、改善点を検討していく予定が十分ではなかった。
9.虐待	4	○虐待に関して、保育教諭が子ども達一人一人を把握するようにしている。気になる子がいれば、情報を共有し、その対応について上司に即相談できるような体制ができており、継続して行う。
10.地域・家庭支援	3	○子どもの様子を保育参観やクラスにより、登降園時に親に知らせるようにしているが、十分ではないと考えているのが伺える。今後、保護者との信頼関係を築くための方法について検討していく。 ○地域の文化、行事等に触れていくためにはどうするか議論していく。
11.経営・組織	3	○職員間では、話しやすい雰囲気はできているが、組織の一員としての自覚や役割について、十分理解していない面がある。今後職務会等で検討会を重ねていく。
12.研修	3	○オンライン研修が殆どであった。そのため、数多く参加したが、全体での復命は十分ではなかった。また、研修内容が、園での保育活動に活かせるように更に強化していく。

<保育教諭の自己評価総評>

○全般的には、「ほぼできた」との結果が多くかった。子どもの生命にかかる「養護」「健康及び安全」「アレルギー」「虐待」等に関しては高評価であった。去年の自己評価より、わずかではあるがポイントは上がっている。保育教諭一人一人よく努力していることが伺える。また、ベテラン保育教諭と若手保育教諭で大きく差がある。これに関しては、項目を整理、分析し、若手保育教諭の課題を引き上げるための検討会を開催する。

○自己評価を実施することで保育教諭として、日頃の保育活動の評価、反省と振り返りを行うことができ、活動の改善等に活かされている。

<こども園評価>

○園全体の目標や課題を職員全員に周知徹底している。しかし、十分ではないので、更に強化していくためにはどうすれば良いかリーダーを中心に検討していく。

○乳児から就学までの教育・保育を実践するにあたり、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」を意識した年間計画の作成や実践・振り返りを通して、目標達成に努めている。更に強化していく。

○新型コロナウイルス感染症対策を徹底している。園児の検温チェック、玄関先での園児の受け入れ、3密の回避、消毒の徹底などを継続していく。

○感染症対策を徹底しながら、従来の保育教育活動が展開できるように職員一丸となって取組んでいく。

○現状や課題について常に問題意識を持ち、よりよい保育教育活動が行えるように更に努力を重ねる。今後も地域と共に子育て支援に努める。